

## あたりまえのことが・・・(何気ないことの幸せ)

「・・・朝のあいさつをしましょう。おはようございます。(おはようございまあす。)」  
いま、6年生の代表の人からもお話があったように、今日から2月です。冬休み、お正月が終わって、3学期が始まったのもつかの間、あっという間に1月は終わってしまい、今日から2月。一月はあっという間に行ってしまいました。今日始まった2月ものんびりしていると逃げていってしまいます。

前にもお話ししたように、3学期はあっという間です。1月は行く月。2月は逃げる月。3月は去る月。残りの3月もあっという間に去って行ってしまいます。

ですから、油断していると、何も準備しないうちに今の学年も終わり、新しい学年になってしまいます。

そこで今日は、「今 あたりまえのことが・・・・」という話をします。

皆さんがふだん何気なくあたりまえに思っていることが、とてもかけがえのないことだったり、とても大切なことだったりするのに、その時は気づかないでいることがよくあるものです。

そしてそれは、今の当たり前のままそれがずうっと続いていくわけではないのです。

今、皆さんの周りには、あたりまえに友達がいて、先生がいて、チャイムにあわせて授業が始まって、自分たちの決まった教室があって、けんかしたり、仲よくしたり。家に帰れば家族がいて、叱られたりほめられたり、ごくごくあたりまえのことがあたりまえのように過ぎていきます。そして、自分だって今あるよいところや自分らしさがずっとこのまま守りつづけられるかどうか難しいところです・・・・。

改めて考えてみると、本当に今あるいろいろな『当たり前』のことはずっとあたりまえでいられるのでしょうか。

今ここで月曜朝会をし、1年生から6年生まで、そして先生方もいらっしやいます。でも、あと2ヶ月経つと、確実に6年生は桃五小にはいません。卒業して中学生になり、桃五小の子どもではなく、それぞれの中学の中学生。

そして、他の皆さんも、1年生は2年生に、2年生は3年生に、3年生は4年生に、4年生は5年生になるのです。そして6年生は、みんなそれぞれピカピカの中学生。もう、今のようここに並ぶことは決してありません。今日のように並べるのもあと何回かだけなのです。

そう、ずっと続く当たり前のことなんてないのです。ふだんの何気ないこと、当たり前のことが、本当はかけがえのない大切なことなのかもしれません。

以前、新聞で中学生のおよそこんな内容の投書を見つけました。

「————— 半月ほど前、小学生の弟が、急に入院した。お母さんからは、風邪をこじらせたただけだ、と聞いていたので心配もしていなかった。でも、何日かしてお父さんから大変な病気であることを知らされた。たいしたことはないと思っていた私はとても驚いた。

弟とはけんかばかりしてきた。弟も私を邪魔だ邪魔だ、といていた。好きだとさえ思わなかったのに、いざ独りになって弟のことを考え、涙が出てきた。『普段の

何気ない、あたりまえの出来事が、本当はとっても大切で、幸せだったんだということに気がついた。』

そして、弟が入院して2週間。私のことを心配して友達が、千羽鶴を折ってくれていた。普段いるのがあたりまえだった友達のありがたさを、改めて知ることができた。———」

普段の何気ないごくごく当たり前のこと、でもそんな中にとっても大切なことがきっとあるはずです。

ですから、改めて自分の身の周りを見直してみませんか。

きっと、宝物のような大切なことに気づかずに何気なくすごしてしまったり、おろそかにしてしまっていたりしているかもしれません。

大切な友達、大切な今の自分、今にしかないもの。今しかできないこと……。書け外の無いものを気づかないうちに自分でこわしてしまわないように、もう一度自分の身のまわりを見回してください。

もう一度見直し、今ある自分や自分のまわりの大切なものを改めて見つけて、そのうえで新しい来年度の一年間を迎えたいですね……。大切な、宝物のようなもの。きっとたくさんあなたの周りにはあるはず。なくさないように、なくさないように……。

お話を終わります。

